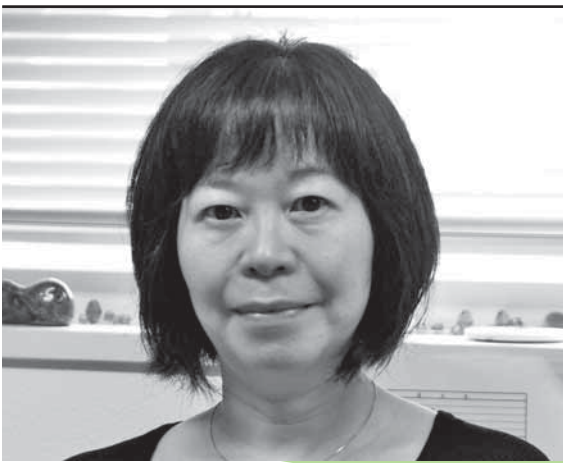


准教授 岸田 光代さん

Kishida Mitsuyo

●プロフィール

東京都生まれ。
 1983年 北里大学水産学部卒業後、東京大学海洋研究所の研究生となる。
 1986年 イギリスのバース大学で研究員として魚類のメラニン凝集ホルモンについて研究。
 1993年 アメリカのロードアイランド大学でテラピアのピテロゲンニンについての研究でPH.D(理学博士号)を取得。その後、ロードアイランド大学理学部、海洋学大学院でリサーチアソシエートとして魚類の内分泌・生理学分野の研究を続ける。
 1997年 ポストン大学でシニアリサーチアソシエート、リサーチインストラクターとしてゼブラフィッシュのアロマテースについて研究。
 2001年 熊本大学大学院自然科学研究科講師
 2007年 熊本大学大学院自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター講師
 2008年 熊本大学大学院自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター准教授



興味のあることを追求すれば、道は開く。

脳アロマテースの研究へ

東京生まれの岸田さんは、小さい頃から生き物が好きで将来は獣医になりたいと思っていました。

現在熊本大学大学院自然科学研究科で、動物生理・内分泌学の研究分野において、「脳アロマテースの発現と脳初期発生」という研究をされています。エストロゲンはアロマテースの働きによりアンドロゲンを基質として産生されるステロイドホルモンであり、一般的には、卵巣で産生される生殖に関わる女性ホルモンとして知られています。一方、エストロゲンは脳においても産生され、情報の処理と伝達をする神経細胞ニューロンの成長分化、保護、可逆性等に作用しています。魚類には脳型および卵巣型のアロマテース遺伝子があり、脳では主に脳型アロマテースが発現します。岸田さんの研究で用いるゼブラフィッシュは受精後24時間以降脳型アロマテースの発現が急激に上昇することから、エストロゲンと脳初期発生の研究に適しているそうです。エストロゲンが神経調節因子として働くメカニズムについて研究しているそうです。

男も女も無い、研究者というスタンスが心地よい。

「生命の不思議を探求することは、とてもエキサイティングなことです。実験を重ねて結果を導き出す。思うような結果が出たときは何ともいえない瞬間です。小さな研究の成果が病気の解明に繋がり、それが人の助けになれたらいいですね」と研究に情熱を傾ける日々が続きます。

日本での学生生活でも男女の区別を感じたことはなかったそうです。「イギリスやアメリカの大学でも女性研究者はたくさんいます。みな普通に研究活動をしています。私も好きな研究が続けられる環境にいられることは幸せだと思います」という岸田さん。家族に研究者はいなかったそうですが、ごく自然に研究者としての進路選択したそうです。

海外の大学へ出て、個人としての独立心がついたそうです。「そこには男・女、人種など戦わなければならない事柄もありました。いろいろな経験を通して自分の価値観を確立することでおのずと目的や進むべき道が見えてくるんです」という。「アメリカの若者は将来の夢を語る時に、人の人生に影響を与えたいということをよく言いますが、日本の若者も自分がどのように役に立てるか考えてみると、自分の進路が見えてくるのではないのでしょうか。」

研究者としての道をひたすら歩いてこられた岸田さん。後輩たちにアドバイスするなら「何も悩む必要は無いと思います。『今自分が興味のあること、好きなことを追求すればおのずから道も開く』と思うんです。私の場合は特に悩むことなく研究を続けてきて、現在の仕事に就きました」。そこには研究者として突き進んでこられた信念を持つ強い意志が感じられました。



実験に使用するゼブラフィッシュ